

I・HEAP (対象 : Clark, A., & Peck, C. L. (Eds.). (2018). *Contemplating historical consciousness: Notes from the field*. Berghahn Books.)

担当 : 空 健太 (国立教育政策研究所)

sora@nier.go.jp

5章 : 歴史意識と国家の領土の表象 トランプの壁とベルリンの壁の共通点

Part 1 CHAPTER 5

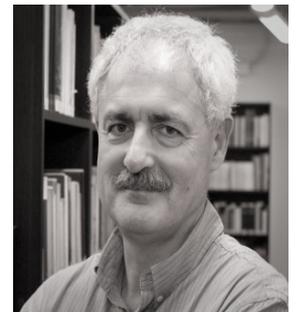
Historical Consciousness and Representations of National Territories What the Trump and Berlin Walls Have in Common

■ 著者情報 : マリオ・カレットロ (Mario Carretero)

- ・スペインのマドリード・オートノマ大学教授。
- ・心理学の博士号を取得。
- ・FLACSO (La Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales) の研究員。
- ・歴史教育に関する国際的な幅広い研究を行なっている。
- ・研究領域 : History education; conceptual change; cognitive development; reasoning

参考 1) 著者情報の Web : <https://www.flacso.org.ar/docentes/carretero-mario/>

参考 2) FLACSO の Web : <https://www.flacso.org/>



■ 代表的な著書

- ・ Carretero, M., Berger, S., & Grever, M. (Eds.). (2017). *Palgrave handbook of research in historical culture and education*. Springer.
- ・ Carretero, M., Asensio, M., & RodríguezMoneo, M. (Eds.). (2013). *History education and the construction of national identities*. IAP.

■ 本章と関連すると思われる著者の最近の論文

- ・ Perez-Manjarrez, E., & Carretero, M. (2021). Historical Maps as Narratives. *Analysing Historical Narratives: On Academic, Popular and Educational Framings of the Past*, 40, 164.
- ・ Parellada, C., Carretero, M., & Rodríguez-Moneo, M. (2020). Historical borders and maps as symbolic supports to master narratives and history education. *Theory & Psychology*, 0959354320962220.
- ・ Kadianaki, I., Andreouli, E., & Carretero, M. (2018). Using national history to construct the boundaries of citizenship: An analysis of Greek citizens' discourse about immigrants' rights. *Qualitative Psychology*, 5(1), 172.

■ 用語

- ・ historical consciousness | 歴史意識
- ・ territorial issues | 領土問題
- ・ banal nationalism | 「日常のナショナリズム」 (マイケル・ビリッグ, 1995)
- ・ porosity | 多孔性 → The porosity of borders | 境界の多孔性 (国境に穴があること)

概要と所感 :

この章では、歴史意識の問題と国家の領土の表象との関係を扱っている。歴史意識の研究を回顧的に整理するのではなく、学際的な取り組みの必要性を主張し、トランプ大統領のアメリカとメキシコの間壁の建設のような現代の政治的問題を取り上げ、歴史意識がなぜ私たちの社会に必要なかを具体的に説明するとともに、歴史教育において歴史意識の観点を取り入れた教育の提案を行い、理論的・教育的ツールとしての歴史意識の可能性を考察している。

■ 議題 (議論の結果も含む)

- ・ この章は、歴史意識を理論的・教育的ツールとして捉えているが、教育の場面で歴史意識はどのように捉えるべきだろうか？ (目的？結果？基盤？方向性？評価をしないけれども目標として在るべきもの (態度目標)？行動目標？学習へのトリガー？発言など表出する特徴に注目するもの？)

(注) 以下の、○は基本的にパラグラフごとに整理したものを示すが、複数のパラグラフをまとめたり分割したところがある。

■歴史意識と国境の表象の重要性

(Historical Consciousness and the Importance of Territories' Representations)

- 歴史教育の発展と歴史意識への注目
 - ・学校の教科としての歴史がうまくいっていないという事実を動機に、歴史教育研究は重要な発展を遂げてきた(例: 英国の School History Project や認知教育研究)
 - ・2つの特徴がある。
 - ・学校の歴史を学問そのものやその方法に近づけること
 - ・歴史的な考え方を教えること
- 歴史教育の研究は大きく進歩している。
 - その中で、特に傑出したアイデアが生徒の歴史意識を高めるものであり、Seixasの著作(2004)以降、ますます注目されるようになった。
- 本章の目的=歴史意識に関する問いについて考察すること
 - ・特に、過去の出来事が「どこで」起こったのかについて注目。
 - ある国家の領土がかつて劇的な変化を経験したことを生徒が理解していない場合、歴史地図で表象される国家の領域が、過去と現在の区別の欠如にどのようにつながるのか。
 - ・本章では、現在の政治、トランプ大統領によるアメリカとメキシコの間の壁の建設や移民問題についての考え方を例に挙げ、歴史意識がなぜ私たちの社会に必要なかを考える。

■生徒の頭の中にある「国境」「国」「壁」

(Borders, Nations, and Walls in the Minds of the Students)

- 著者の個人的な経験
 - ・1992年のユーゴスラヴィアにおけるセルビア人とボスニア人の紛争のニュースに関する娘との対話
- 娘: ねえパパ、どうしてこの戦争は止められないの? この人たちに起こっていることは恐ろしいことだわ。お互いに殺し合っているのだから。

著者: うーん、複雑なんだ。悲しいけど、とても複雑なことなんだよ。

娘: 私は複雑だとは思わないわ。とてもシンプルだわ。解決策があるもの!

著者: どうするの?

娘: そうね... 虐殺を防ぐために壁を造るわ。ボスニア人は片方に、セルビア人はもう片方に住むようにするの。そして、その壁を越えることを禁止するの! (ある大統領の発想と同じ)

著者: でも、それを実行するのは簡単じゃあないよ。

娘: どうして?

著者: セルビア人とボスニア人の両方が両方の部分に住んでいるからだよ。だから、もし彼らが自分の土地から新しい場所に移されることになったら、あちこちで不幸な人が出てくるだろう。それに、すべてのセルビア人、すべてのボスニア人がその解決策に同意するとは限らないよね。例えば、家族の中にはボスニア人とセルビア人の両方がいる家もある。

娘: じゃあ、パパ、どうすればいいの?
- ・国境に壁を造るといった単純な解決策は本当の解決策ではないことを娘に教えるためには、次のことが必要だった。

- ・セルビア人とボスニア人が同じ国民国家に共存しているのはWWIIの結果であること
- ・WWIIの結果、ヨーロッパが二つのブロックに分かれたこと
- ・ユーゴスラヴィアは「新しい」国家であり、WWII以前には存在しなかったこと

- 現在の政治問題の原因を教え、生徒の歴史意識の向上に寄与するには、3つの課題がある。
 - (1) 社会的・政治的概念の理解を深めること
 - (2) 過去の出来事と現在の問題との間に意味のある関係を示す歴史的な視点を導入すること
 - (3) 物語形式の歴史的な説明を理解する。つまり、状況の起源、原因、結果を考慮して、状況を歴史化する

- 娘と同様に、多くの 10 代の生徒にも同様の傾向が見られる。その理由は、一般に生徒が社会的・政治的・歴史的な問題を理解する方法と一致しているため
 - 歴史的な概念や問題は、多くの抽象的な思考を必要とし、社会的な出来事の直接的な認識に基づいているだけではないということ（歴史教育の本質的な課題）。
- ・歴史的な概念のラベルの多くは、「国家 (nation)」「国境 (border)」「移民 (immigration)」などの日常的に使われる言葉と同じ。
 - そのため、素朴な歴史論が展開されると、誤解を招く結論になりかねない（娘との対話のように）
- ・例えば、ある子供が「国家 (nation)」という言葉を使っているとしても、概念を理解しておらず、非常に単純な考えをもっているかもしれない。
- ・歴史的な内容は、教育者や歴史家により物語の形式で展開されるが、その物語自体に概念が盛り込まれていることも考慮しなければならない。
- ・物語と概念との相互作用は、理論的にも実践的にも非常に重要な問題。

■ トランプの壁と歴史意識の発達

(Trump's Wall and the Development of Historical Consciousness)

- 現代の問題や課題を理解するには、何が起こったか+どこで起こったかの理解が必要。
 - ・領土の歴史的な分析とその教授には、地球上のさまざまな地域をめぐるさまざまな社会集団の争いに関連する歴史的な展開に注意を払う必要がある。そうしないと、生徒は現在の領土を時代を超えて変わらない政治的な単位と考えてしまう。
- 今日の政治的な出来事は、歴史教育で領土問題を理解できるようになることの重要性と、それが生徒の歴史意識の発達に寄与することを示す好例。
 - アメリカのトランプ大統領による米墨間の 5000 キロの壁の建設（不法移民から米国の領土を守る）こうした行動は否定される人々がいる一方、望ましいと考える人々もいる。
- 国境に壁を建設することの社会的・歴史的な側面
 - 国境の社会的な側面＝現実には存在しない、象徴的で想像的な境界 ↔ 物理的な境界
 - 国境の歴史的起源
 - なぜ、どのようにしてアメリカとメキシコの国境ができたのか。
 - それ以前にも国境はあったのか？
 - アメリカの国境は時代とともにどのように変化してきたのか？
 - これらの問いは、米国の国家の領土の時間的変化に関係し、それらの変化の歴史的な理解に基づかねばならない。
 - ・通時的な表現と共時的な表現の両方がなければ、過去と現在の間に意味のある関係を築くことはほとんど不可能であるため、このことを理解することは、市民の歴史意識の不可欠な要素
- 歴史的な観点から考えるメキシコとアメリカの関係
 - ・アメリカがメキシコに侵攻し、米墨戦争が始まる。
 - ・アメリカはこの戦争に勝利し、地図 5.1 のように国境を変更した。メキシコは領土の約半分を失い、アメリカはカリフォルニアを經由した太平洋へのアクセスなどを得た。
 - ・米墨戦争は、アメリカの帝国主義的な傾向の結果であった。
 - ・米国内部にもこの戦争に対する抵抗があった（例：ソロー (1817-1862)）。
 - ・この戦争はアメリカ南北戦争へのプロローグでもあった。

地図は原典を参照

地図 5.1. メキシコとの戦争 (1846-1848) の後、メキシコが失い、アメリカが獲得した領土
(Contemplating Historical Consciousness: 36 (Making Sense of History) (p.117). Berghahn Books. Kindle 版)

- ・アメリカは独立戦争以後、拡大主義的な時期を経験した。
- ・現在及び過去の米国の歴史教科書は、ネイティブ・アメリカンからの領土の併合や暴力について詳細に触れず、国の発展のために必要なことだったと正当化されている。地図 5.2 の標準的な歴史地図でも、ネイティブアメリカンについては触れていない。

地図は原典を参照

地図 5.2. アメリカの領土の発展
(Contemplating Historical Consciousness: 36
(Making Sense of History) (p.119). Berghahn
Books. Kindle 版)

→領土がどのように変化していったかという歴史的な表現を検討することなしに、国家と国家の関係や、二つの国家がどのように構築されてきたかを歴史的に理解することは非常に困難。

- 歴史地図は、単に領土を表現するだけでなく、その時間的な変化や過去の出来事が起こった物理的・地理的な領土を表現することが重要。
- ・例：「米墨戦争でアメリカが勝った」と学習する時、戦争の前後でそれぞれの国の領土が具体的にどうなっていたのかを理解していなければならない。そうでなければ、現在と同じような領土で戦争をしていると想像してしまう。

■ベルリンの壁と結論としてのその他の考え

(Berlin's Wall and Some other Thoughts as Conclusion)

- 「ベルリンの壁」と「メキシコとアメリカの壁」
- ・ 国境に壁を造るという過去の取り組みは、民主主義の観点からは強く批判されてきた
→ベルリンの壁が最たる例（自由の欠如と政治的抑圧の象徴）
- ・ トランプ大統領の民主主義のために物理的な壁を造るというアイディアは、逆説的
問い 彼の考え方は、自由の制限や、ある種の政治的な抑圧の確立に近いのか？
彼の考え方は、旧東ドイツや旧ソ連の当局とどのような共通点があるのか？
- ・ これらの問いに答えるのは簡単ではないが、生徒にとっての歴史意識の活動の例として使えるかもしれない。
- ・ 明確なことは、過去と現在をはっきりと区別することが必要で、それが市民の歴史意識を育むために重要である。
- 「ベルリンの壁」と「メキシコとアメリカの壁」に共通する国境についての考え方
- (1) 国境を象徴的なものではなく、物理的で具体的なものに変えようとする意図（国家とその歴史的起源についての本質主義的な見方）＝バナル・ナショナリズム (banal nationalism)
- (2) 国境を越えた人の流通を完全に阻止する意図、移民という行動を犯罪化するという考え
→歴史上の国境の物理的構成要素と象徴的構成要素の違いを理解することで、生徒の歴史意識を高めることができるのではないか。

○結論

- ・ 歴史教育において、過去の出来事に基づいて世界各国の現在の関係—例えばメキシコとアメリカの関係—を理解しようとするのであれば、多くの政治的・歴史的な概念やナラティブを本格的に導入することが切実に求められる。

- (1) 現在の国境は、歴史上の政治的・軍事的な行動の結果である。
- (2) 国境に本質的な意味はなく、象徴的なものである。
- (3) そのため国境を物理的な制限に変えることは市民に幼い表象を助長する危険性がある。
- (4) 国境の多孔性は、よりよい生活の可能性を示し、侵害されてはならない人権を表している。

理論的・教育的ツールとしての歴史意識の可能性